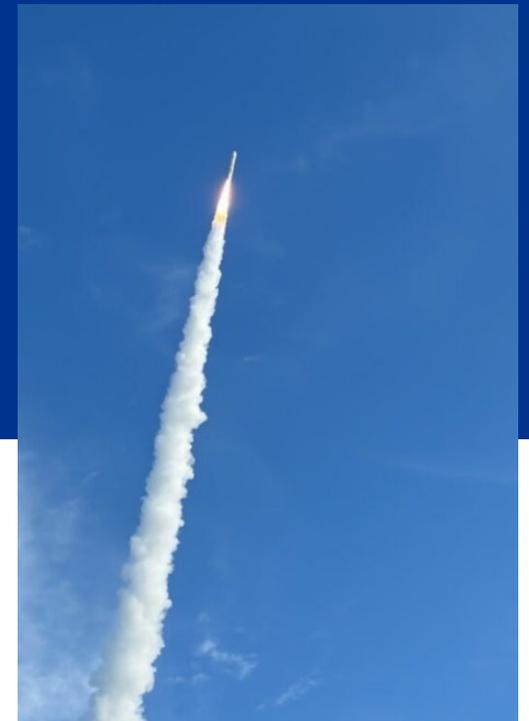


「国力の源泉」宇宙開発利用政策への 理解を深めていただくために

宇宙開発利用を担われている
皆様へ

2024年4月25日

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局



宇宙の開発・利用への国民の理解は不可欠

- 宇宙開発利用・宇宙産業は、産学官が総力を結集し、我が国の成長産業にすべき分野。
- 政府の宇宙関係予算は年々増加している。令和6年度は8,945億円。
- 大規模な資金投入であり、その必要性への、国民の理解は不可欠。
- 産学官が、理解促進のための取組に一層、注力する必要がある。

政府の姿勢 1 — 積極的な情報発信 で、宇宙の理解を促進

- ✓ 宇宙の開発利用の重要性・不可欠性を伝える活動に、政府も力を入れたい。
- ✓ 例えば、「宇宙開発利用大賞」やその広報にあたって、新たな取組を実施。

政府の姿勢 2 — 明確な目標 を掲げ、成果 を提示

- ✓ 新たに創設した「宇宙戦略基金」について、「基本的考え方」として新たな目標を設定。

■ 2024年2月9日 高市宇宙政策担当大臣 閣議後会見（抄）

〔略〕 大規模な資金投入になる以上、事業全体としての明確な目標が必要で、その方向性に沿って予算を有効に活用していくことが重要だと考えております。

したがって、この6日の宇宙政策委員会で「宇宙戦略基金 基本的な考え方」においては、宇宙輸送の分野では、2030年代前半までに国内でロケットの打ち上げ能力を30件程度確保」すること、また衛星の分野でも「2030年代早期までに、国内の衛星システムを5件以上構築」することといった目標を設定して、事業設計の基本的な考え方を掲げたというものでございます。〔下略〕

理解を増進してもらうための観点

観点 1 — 宇宙は **社会を、守り・支え・豊かにする**

- ✓ 宇宙システムは国力の基盤。「国力」とは、外交力・防衛力・経済力・技術力・情報力であり※、宇宙システムはこのいずれをも支えている。※「国家安全保障戦略」(2022年12月16日閣議決定)
- ✓ 宇宙は“役に立っている”。衛星は、能登半島地震の被災状況の把握に活躍。安全保障、防災・減災、気象予報、通信、農林水産業、測位など、宇宙関連技術は、様々な分野で不可欠。

観点 2 — 宇宙活動は、**次世代の国民へのメッセージ**

- ✓ 宇宙科学・探査や、ロケットの打上げ、宇宙飛行士の活躍に代表されるように、宇宙は、夢や希望、日本人としての誇りを与え、知的好奇心を喚起する※。
※「宇宙基本計画」(2023年6月13日閣議決定)
- ✓ SLIMの月面着陸・通信確立や、H3ロケット試験機2号機の打ち上げの成功は、成功に至る関係者の努力を、子供たちに示した点も意義がある。

■ 2024年2月17日 JAXA岡田匡史 H3プロジェクトマネージャ 記者会見

記者： 子どもや若者に向け、その魔物(ロケット開発)と対峙することの難しさや魅力を伝えてください。

岡田： [中略] 難しいものを開発して、打ち上げて成功させることに、私はものすごく魅力を感じています。もちろん、つらいときもありますが、それは好きなら乗り越えられると思います。それはロケットだけではなく、どんなことでも同じだと思うので、お子さんには「なんでもいいから好きなことを見つけて、それにチャレンジして、乗り越えるのが楽しいよ」ということを伝えたいです。

宇宙の開発利用を担われている皆様へ

■ 2023年10月20日 高市宇宙政策担当大臣 閣議後会見（抄）

【略】 内閣府の宇宙開発利用大賞のポスターで、VTuberの「宇推くりあ」とタイアップをしたのですが、大変な反響でございまして、発表後、内閣府のXの関連投稿が昨日までで280万回表示ということで、記録が残る範囲で、内閣府の投稿では過去最多でございます。皆様に科学技術や宇宙開発をより身近に感じていただけるように、広報活動にこれからも精力的に取り組みたいですと思っております。

- 日々、宇宙産業や技術開発に取り組まれている皆様にとっては、宇宙は必ずしも遠い存在ではなく、宇宙産業や宇宙関連技術が、日常生活に直結しているのは当たり前のことかもしれません。
- しかし、業界（政府の中で宇宙政策に携わる、我々役所の部局も含みます）の外に一步出ると、これは自明のことではありません。
- 宇宙の開発利用を担われている、産業界・学会の皆様にも、皆様のミッションの、成果の意義を、広く・力強く、発信していただきたく、お願い申し上げます。政府も一層、力を入れてまいります。

『航空と宇宙』（日本航空宇宙工業会会報）2024年1月号に宇宙開発戦略推進事務局長より寄稿。
その他、宇宙開発戦略推進事務局からさまざまなステークホルダーに対して、同様の呼び掛けを随時実施。

こちらにも御覧ください：政府の情報発信の例

■ 内閣府の取組

業界誌への寄稿

- 高市早苗「宇宙産業の力で「国力」の強化を：新たな「宇宙基本計画」と「宇宙安全保障構想」を実行に移す」『月刊経団連』2023年9月号、68-70ページ。
<https://www.keidanren.or.jp/journal/monthly/2023/09/p68.pdf>
- 高市早苗「強い宇宙産業の力が、国を支え、富を呼び込む：「宇宙戦略基金」をフル活用して産学官の総力結集を」『会報宇宙』（経団連宇宙開発利用推進委員会）2024年、72号、1-9ページ。
https://www.keidanren.or.jp/policy/2024/028_kaihochu2.pdf



SNSでの発信

- 内閣府公式「X」や「Facebook」で
 - ・ VTuberとタイアップした「宇宙開発利用大賞」の募集告知（内閣府「X」開始以来最高のインプレッション数 [298万回]）https://x.com/cao_japan/status/1712665178578522430
 - ・ ロケット打上げ・宇宙飛行士帰還時などの宇宙政策担当大臣談話を発信
 - ・ 「安全で持続的な宇宙空間を実現するための手引書」公表をPR



スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク「S-NET（エス・ネット）」

- 宇宙に関連する、新産業・新サービスの創出に関心を持つ企業・個人・団体等の連携を促進し、宇宙ビジネスの裾野拡大を図る。先進事例を紹介するセミナーの開催※や、自治体支援などを実施。 ※令和5年度は3回。最近では、3月12日に「宇宙ビジネスセミナー」を東京で開催。
- 「宇宙基本計画工程表」（令和5年12月22日宇宙戦略本部決定）は、S-NETによる地域の新事業・新サービス創出の推進を内閣府・経済産業省が行っていくことを示している。

こちらも御覧ください：政府の情報発信の例

■ 文部科学省の取組

広報誌とSNS

- 「総力戦で挑む宇宙開発：宇宙開発を民間企業や大学とともに」、文部科学省広報誌『ミラメク』2024年春号、5-6ページ。同「note」記事。（「宇宙戦略基金」の解説）
https://www.mext.go.jp/content/20240329-ope_dev03-100003819-2.pdf
<https://mext-gov.note.jp/n/n412d70b4fd5e>



■ 経済産業省の取組

公式メディア

- 「政策特集 宇宙視点のビジネスを：広がる衛星データ活用」、経済産業省公式ウェブメディア『METI Journal ONLINE』2023年1月。
<https://journal.meti.go.jp/policy/202301/>
- 「スタートアップ育成に向けた政府の取組：スタートアップの力で社会課題解決と経済成長を加速する」（37ページで宇宙戦略基金を紹介）、経済産業省ウェブサイト、2024年2月。
https://www.meti.go.jp/policy/newbusiness/kaisetsushiryoku_2024.pdf

